

社会資本整備総合交付金 事後評価シート
亀川地区

平成31年3月

大分県別府市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大分県	市町村名	別府市	地区名	亀川地区			面積	80ha
交付期間	平成25年度～平成29年度	事後評価実施時期	平成30年度	交付対象事業費	902百万円	国費率	0.4		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路事業（都市計画道路亀川駅西線（駅前広場）整備事業、市道市姫妙診線整備事業）、公園事業（浜田公園整備事業）、地域生活基盤施設（駐車場整備事業、情報板設置事業）、高質空間形成施設（駅前広場シェルター設置事業、ポケットパーク整備事業）						
		提案事業	地域創造支援事業（亀陽泉会館建替事業）、事業活用調査（事業効果分析調査）、まちづくり活動支援事業（住民・学生ワークショップ開催事業）						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	公園事業（浜田公園整備事業）、高質空間形成施設（駅前広場シェルター設置事業）	全面改修の必要性を見直し、軽微な維持補修を行うこととしたため	影響なし				
		提案事業	なし	-	-				
	新たに追加した事業	基幹事業	道路事業（市道県道妙診線整備事業）	計画区域内の円滑な交通の確保及び安全性の向上を図るため	影響なし				
		提案事業	なし	-	-				
交付期間の変更	当初	平成25年度～平成29年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	なし					
変更	なし								

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	まちの改善度	%	41%	H24	70%	H29	-	76%	○	あり なし	地域の拠点となる亀川駅や亀陽泉の周辺整備の実施、道路拡幅整備により、まちの改善に対する効果発現を確認することができた。	-
指標2	亀陽泉の利用者総数	人/年	63千人/年	H23	99千人/年	H29	-	120千人/年	○	あり なし	老朽化した亀陽泉の建替えとともに、高齢化や障がい者が使いやすいようにバリアフリー化したことで、利用者総数が増加し、効果発現が確認できた。	-
指標3	まちづくり等に関するWSの開催回数	回	3回	H20-H24（総数）	15回	H25-H29（総数）	-	19回	○	あり なし	事業の進捗や防災訓練等にに合わせて、地域住民、障がい者等による合意形成活動（WS等）を開催し、意見交換の場を設けることにより、目標値を達成することができた。	-

3)その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他の数値指標2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

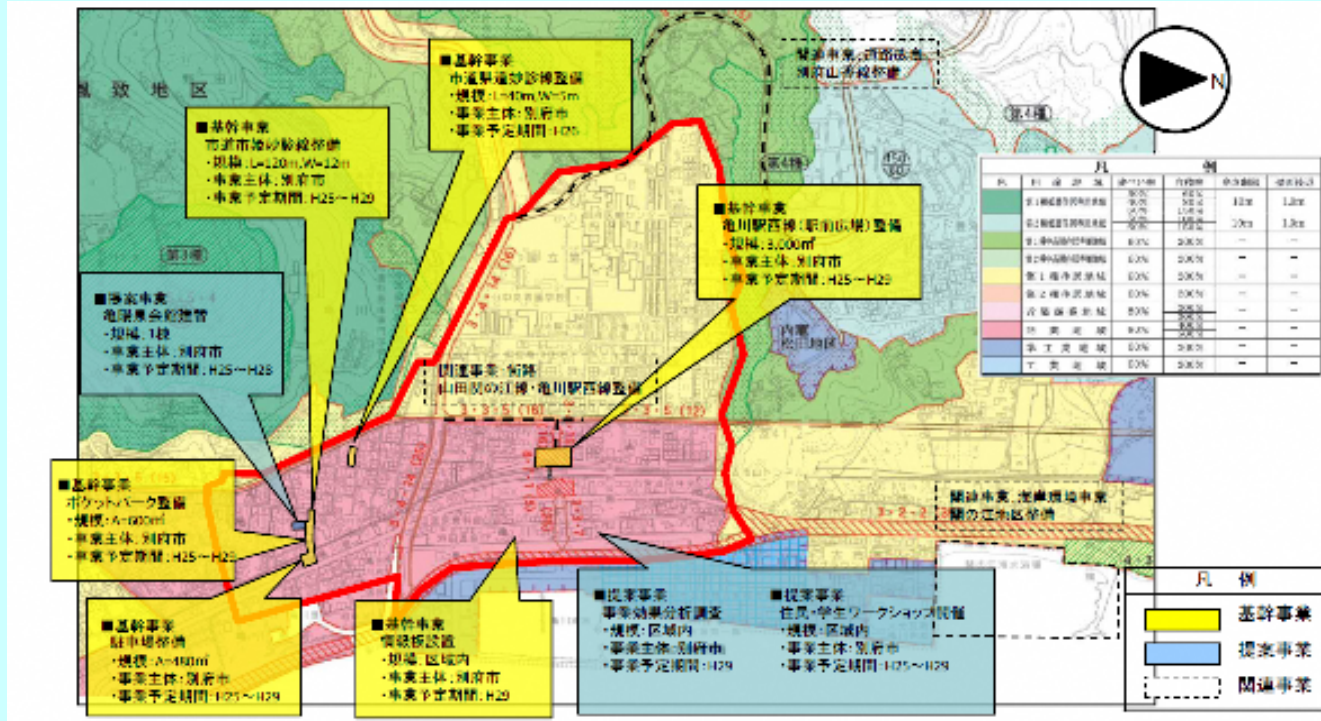
4) 定性的な効果発現状況
 老朽化した亀陽泉をバリアフリー対応で建替えたことにより、高齢者や障がい者の利用が増加し、地域住民との交流の場が増えた。WS等の意見交換の場を通して、防災やまちづくりに対する住民意識の向上を図ることができた。

5)実施過程の評価	実施内容	実施状況			今後の対応方針等
		モニタリング	評価値	達成度	
モニタリング	毎年公表される統計データを確認し、指標の値の推移を把握した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	今後もデータの推移を確認し、効果の把握を行う。	
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	-		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-		
住民参加プロセス	「亀川地区まちづくり推進協議会」を随時開催し、事業の進め方や効果、課題について検討を行った。また、施設整備や防災訓練等防災に関するワークショップやヒアリングを行い、住民意見を計画に反映させた。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	協議会での意見や住民からの意見については、今後の整備等に役立て、利用者目線でのまちづくりに努める。	
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	-		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-		
持続的なまちづくり体制の構築	-	都市再生整備計画に記載し、実施できた	-	-	
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	-		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-		

様式2-2 地区の概要

亀川地区(大分県別府市) 社会資本整備総合交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	評価値	目標値	評価値	目標値	評価値
大目標：誰もが安心・快適に過ごせる国際性と伝統が共存したまち 目標1：人にやさしい安全で快適なまちづくりの推進 目標2：多様な交流・賑わいを創出する地域拠点の形成 目標3：防災体制の充実	まちの改善度	単位：%	41%	H24	70%	H29	76%	H30
	亀陽泉の利用者総数	単位：人/年	63千人/年	H23	99千人/年	H29	120千人/年	H29
	まちづくり等に関するWSの開催回数	単位：回	3回	H20~H24 (総数)	15回	H25~H29 (総数)	19回	H25~H29 (総数)



まちの課題の変化

地域の拠点となる亀川駅や亀陽泉周辺においては整備によるバリアフリー化、施設の建替を行ったが、地区内は小学校や病院、障がい者の多い施設が立地し、道路の多くは幅員が狭いことから、交通安全対策を推進し、子どもや高齢者、障がい者の通行におけるバリアフリー化、防災対策等が求められている。また、地域の基幹道路となる都市計画道路が整備中であることから、引き続き完成を目指し事業を行う必要がある。

このような中、課題として以下があげられる。

- 交通安全対策(子どもや高齢者、障がい者の通行に対する安全性の確保)
- 道路整備等によるバリアフリー化、災害時の避難通路確保
- 商店街の活性化
- 災害時に備えた対策

今後のまちづくり方策(改善策を含む)

亀川地区は病院、障がい者が多い施設(太陽の家)のほか付近には大学が立地しており、障がい者・留学生が多く、共生のまちという別府市の特色が凝縮された地域となっていることを踏まえて、以下のまちづくりを進めて行くものとする。

- 通行空間の確保や照明設置等の道路整備によるバリアフリー化や交通安全対策を進めるとともに、整備中の都市計画道路の早期完成を目指す。また、ハード整備のみでは多くの時間と予算が必要となるため、ソフト事業を並行して行い、地域住民とともに交通安全対策等の充実を図るものとする。
- 地域の活性化について、今後も住民合意形成の機会を設けるとともに、留学生や民間事業者との連携を図ることにより国際性漂う亀川地区を醸成する。また、亀陽泉を中心とする亀川温泉エリアを活かした観光振興や、商店街の空き店舗を活用、地域の空き家を活用した取組み、生活利便施設への対策を検討する。
- 防災対策として避難経路の整備だけでなく、ハザードマップによる危険箇所の住民周知や災害の発生を想定した防災訓練の実施等を官民協働で行うことにより、災害に対する住民意識の向上を図るものとする。